

【第5期島根県竹島問題研究会第4回】

「東北アジア歴史財団」の動画『資料が語る歴史の
真実』について

令和4年11月1日（火） 下條

1. 『資料が語る歴史の真実』（日・英・中国語版）の
公開、2021年5月～2022年2月

- (1) 洪聖根氏 「鬱陵島から眺める独島」
- (2) 洪聖根氏 「混乱の中で守られてきた独島」
- (3) 崔雲燾氏 「古文書と地図からみた独島」
- (4) 崔雲燾氏 「日本の文献からみた独島」、
- (5) 金榮洙氏 「日本の領土侵奪と大韓帝国の対応」

2.動画『資料が語る歴史の真実』で 論拠とされた文献と古地図

(1) 文献

『世宗実録地理志』、『蔚陵島事蹟』、『三
国史記』、

『萬機要覧』、『東国文献備考』、『元祿九
丙子年朝

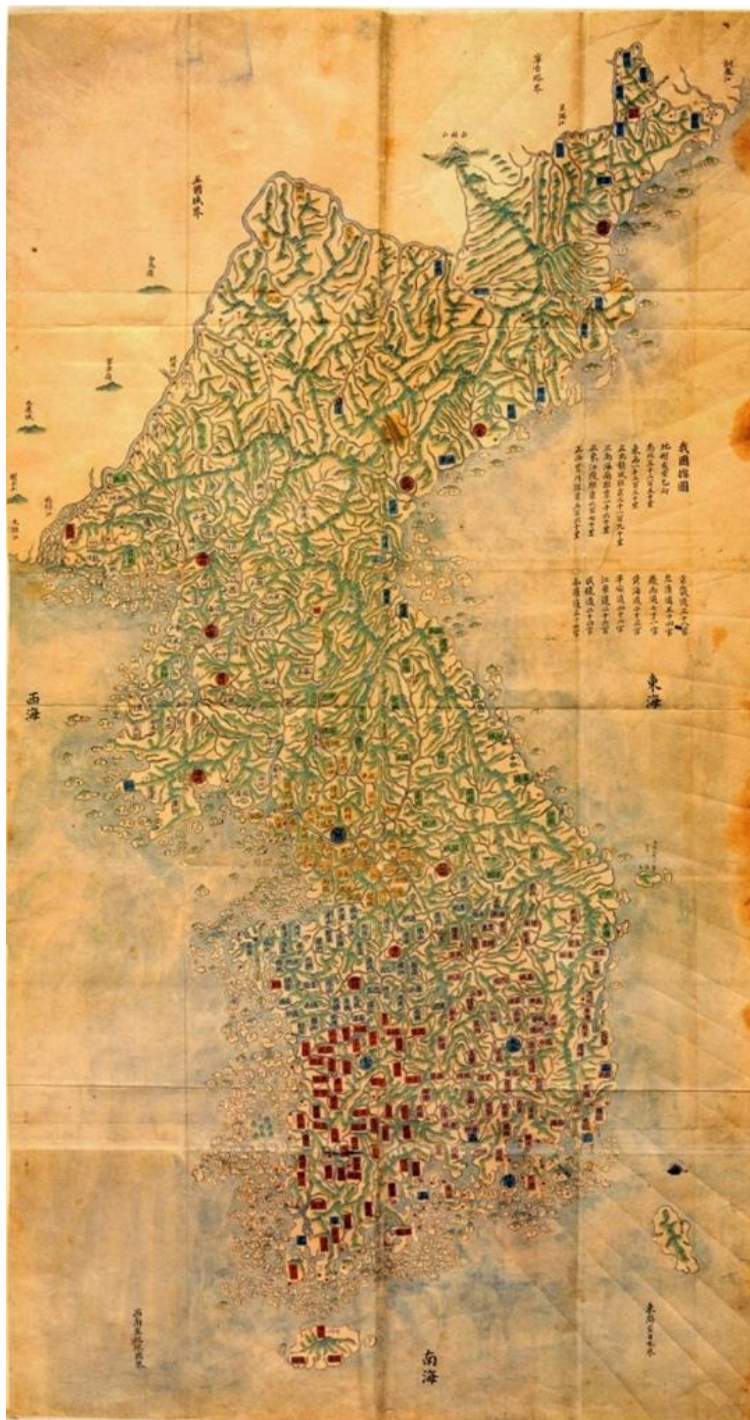
鮮舟着岸一卷之覺書』、『朝鮮国交際始末内
探書』、

『太政官指令』、『勅令第41号』等

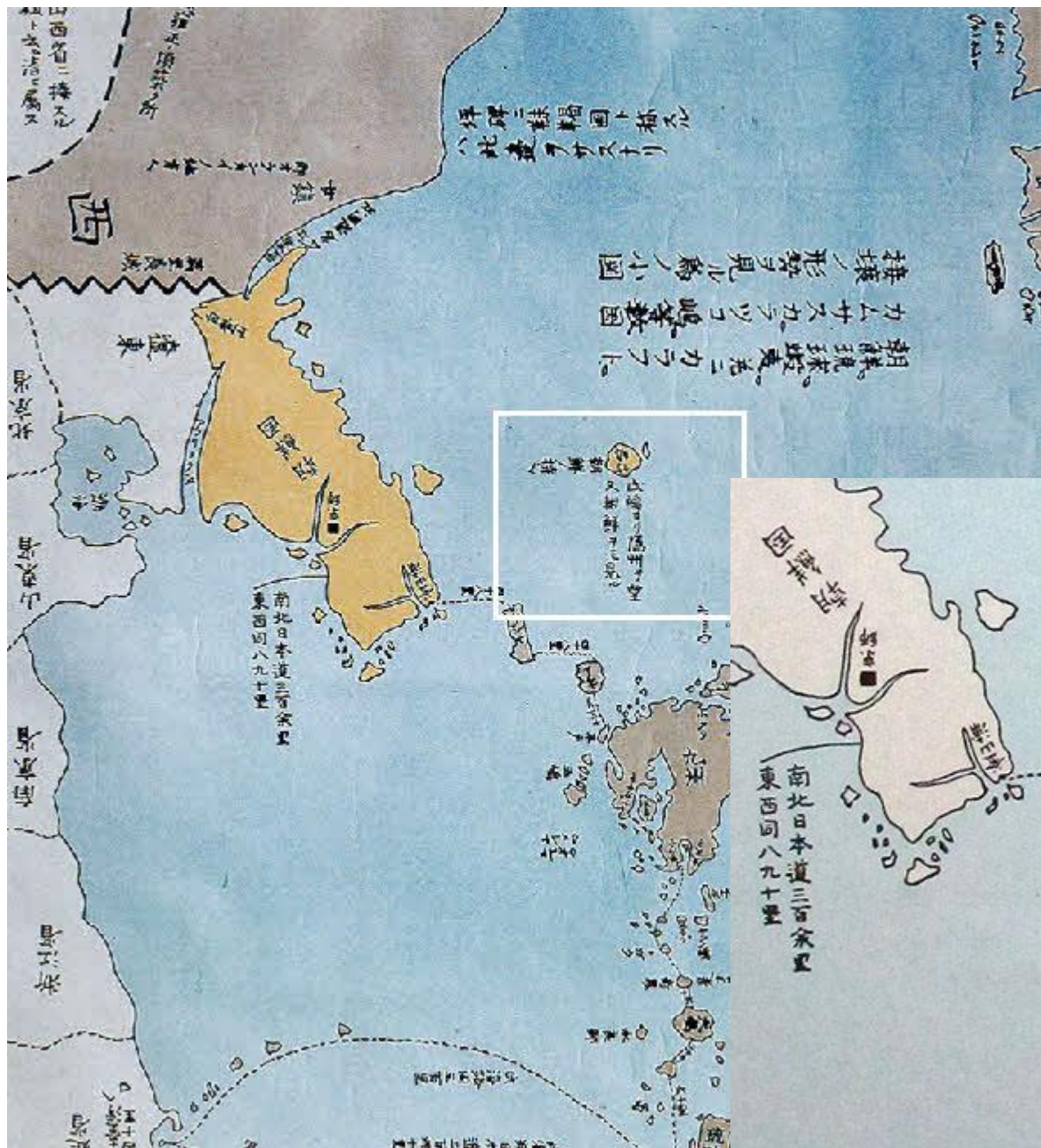
(2) 古地図



『東国大地図』



『我国総図』



『三国接壤之図』



3.動画『資料が語る歴史の真実』まで

- (1)外務省『竹島問題を理解する10のポイント』(2008年2月)
- (2)内藤正中氏『竹島＝独島問題入門 - 日本外務省「竹島」批判』(2008年10月)
- (3)内藤正中氏『韓日間の独島竹島論争の実体』(2009年2月)
- (4)東北アジア歴史財団『日本が知らない10の独島の真実』(2011年4月)
- (5)Web竹島問題研究所『韓国が知らない10の独島の虚偽』(2011年6月)
- (6)2011年2月、韓国教育科学技術部「小・中・高等学校独島教育内容体系」公表
- (7)「東北アジア歴史財団」、副教材『独島を正しく知る』編纂(2011年12月)

5. 『資料が語る歴史の真実』の論点

- (1) 鬱陵島からは独島が見える。『世宗実録地理志』（「蔚珍県条」）
誤読

「于山武陵二島在縣正東海中〔分註〕二島相去不遠。風日清明則可望見（以下略）」

- (2) 川上健三氏『竹島の歴史地理学的研究』（1966年）

→誤解

- (3) 「東北アジア歴史財団」の誤謬→「独島可視日数調査」

（2008年～2009年）

- (4) 池内敏氏『竹島 - もう一つの日韓関係史』（2016）

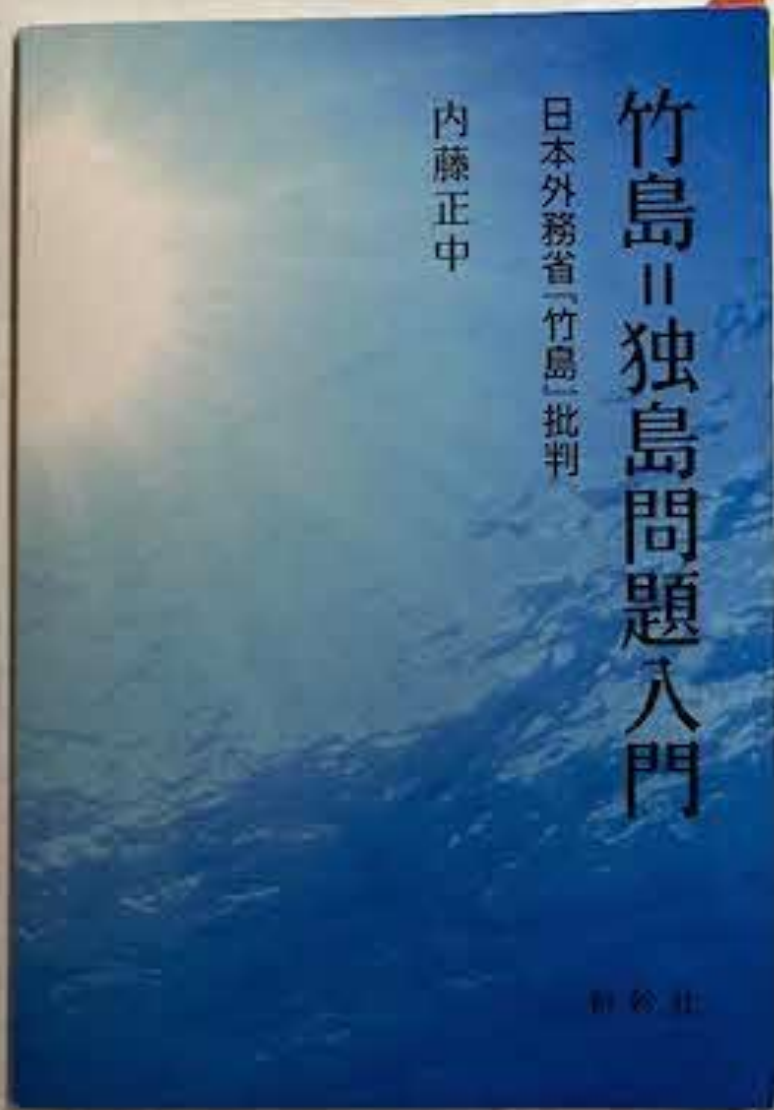
→『世宗実録地理志』の誤読

- (5) 『三国史記』 「新羅本紀」 智証王十三年条の論拠

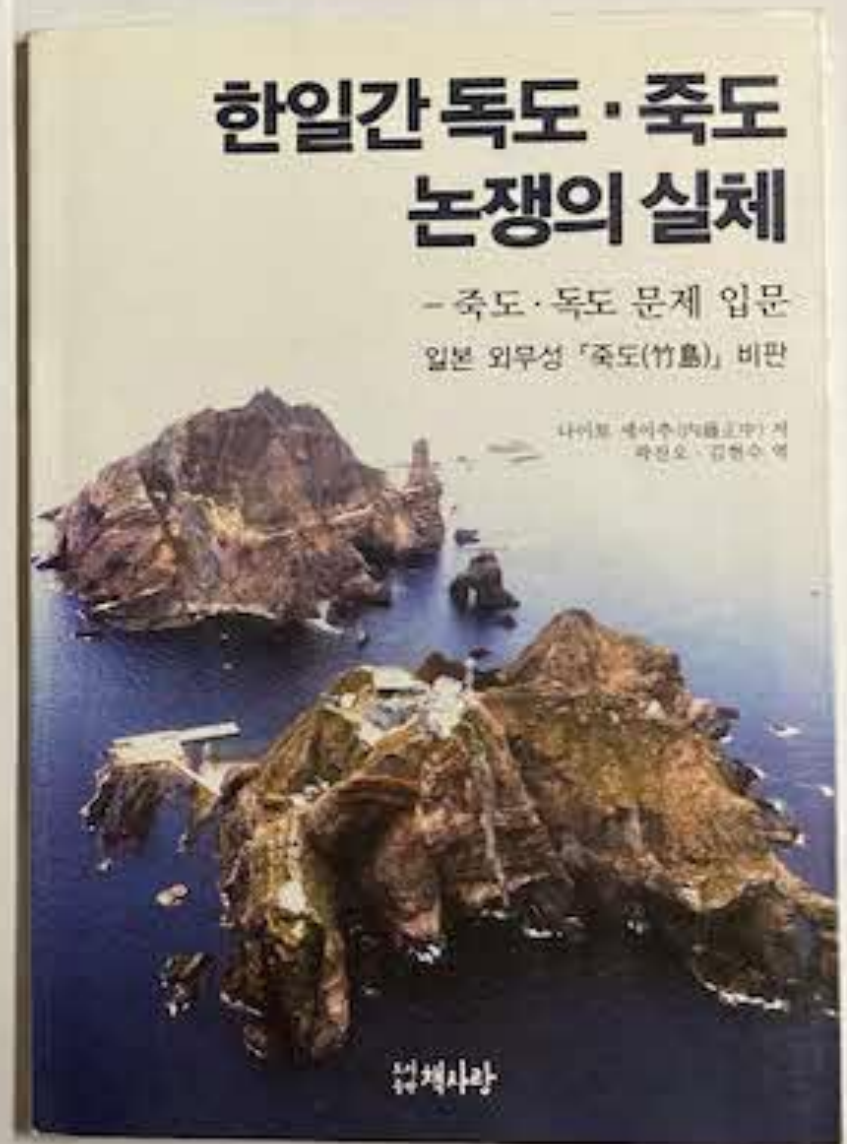
→『東国文献備考』の改竄

「于山武陵二島在縣正東海中〔分註〕二島相去不遠。風日清明則可望見(以下略)」

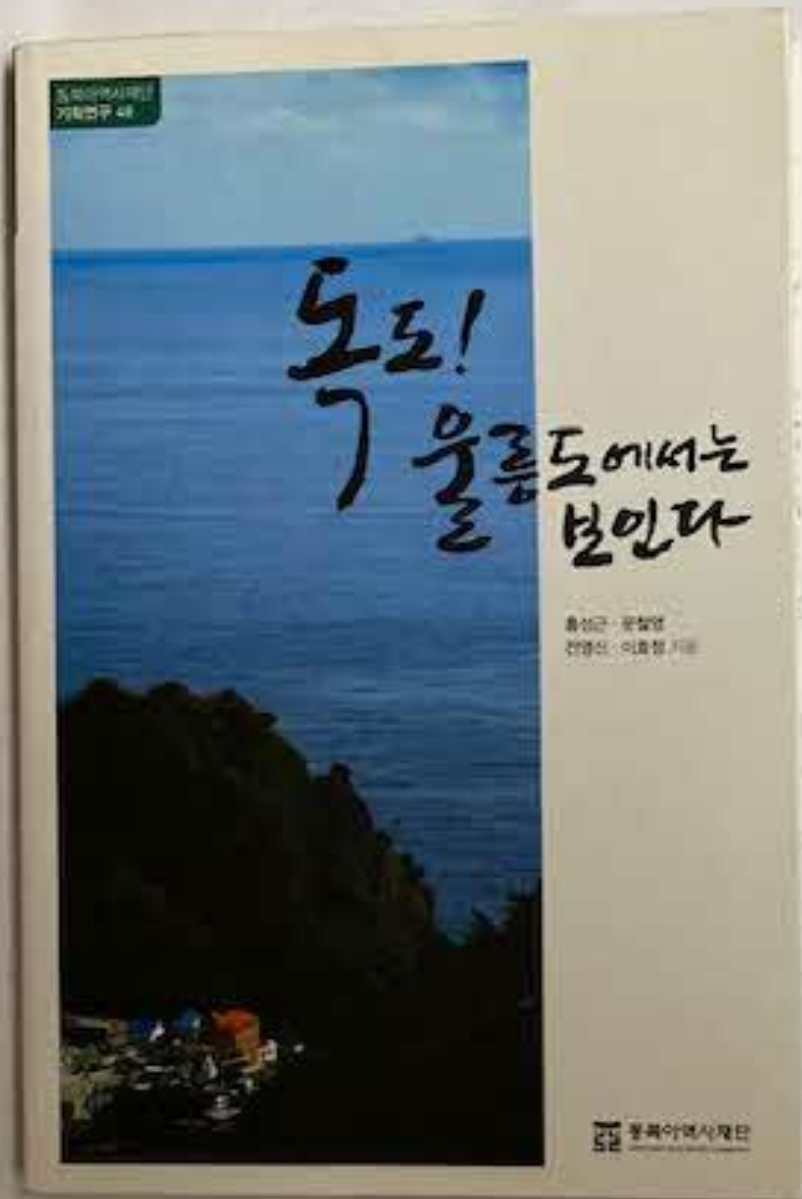




『竹島 = 独島問題入門 - 日本外務省「竹島」批判』



『韓日間の独島竹島論争の实体』



『独島 鬱陵島からは見える』



『竹島 - もうひとつの日韓関係史』